

令和 3 年度

事業報告書 及び附属明細書

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

公益財団法人 八王子市学園都市文化ふれあい財団

I 令和3年度財団経営の総括

新型コロナウイルス感染症は衰えることなく、従来型から変異した感染力の強いデルタ株やオミクロン株の流行により「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が発出されるなど、引き続き警戒が必要な状況が続いてはいますが、ワクチン接種の普及やマスクの着用など基本的な感染対策を徹底することで、感染拡大を一定程度防げることから、日常生活や経済活動を回復できるよう行動制限の緩和を進める方針が決定され、イベントの開催や観客数の制限、及び施設の利用時間・人数の制限が徐々に緩和されたため、これまでの経験を活かした感染対策を徹底しながら事業を実施しました。

施設管理においては、これまでの感染対策に加え、文化芸術振興費補助金を活用し施設の抗菌コーティングやホールの通信環境整備などを行い、適切に管理運営を行いました。

芸術文化振興事業では、5月の「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル 2021～」は、感染防止のため無観客オンライン（一部ライブ）配信で実施し、撮影したアーカイブやダイジェストの映像をYouTubeで配信しました。また、「八王子音楽祭 2021～Music for Earth～」は、「世界の楽器展覧会」を9月から3月に延期し実施しました。「八王子ユースシアター2021:クロッシング」は有観客の公演に加え一部オンライン配信で開催しました。

夢美術館では、「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展」や「かこさとしの世界展」など5つの特別展を開催しました。

コミュニティづくりでは地域住民協議会と連携し、各市民センターを中心に地域交流の場を提供するとともに、電話による仮予約を来館せずにWebから利用確定できるサイトを構築しました。また、八王子市からの依頼により石川市民センターなど8館を新型コロナウイルスワクチン接種会場として提供しました。

また、上柚木公園では、小学生対象短距離走競技会「第10回はちおうじダッシュ！」を、4～6年生を対象に実施したほか、地域のボランティア団体などと連携し、安全できれいな公園づくりを行いました。

学園都市づくりでは、学園都市大学（いちよう塾）の開講、大学コンソーシアム八王子の支援を行いました。

経営面では、施設の休館・利用制限により、利用料金収入は落ち込んだものの、雇用調整助成金など新型コロナウイルス感染症に関する助成制度を活用し収入の確保に努め、支出においても、年度当初から効率的な業務執行や省エネ対策実施による光熱水料費の削減など経費削減に取り組んだ結果、黒字決算となりました。

1. 中期経営計画の重点施策と結果

令和3年度は、第3次中期経営計画の初年度にあたり、同計画に掲げた施策・目標の達成に向け、安全面に配慮しながら事業を実施しました。重点施策の結果は次のとおりです。

- (1) 魅力ある芸術文化事業を全市的に展開し、「芸術文化薫る魅力都市八王子」を市内外に発信する
「夏井いつき句会ライブ in 八王子」や親子で楽しむ演劇公演「めにみえない みみにしたい」を初めて開催し、また八王子音楽祭 2021の「世界の楽器展覧会」では展示会場に楽器の音色をスマートフォンで聞くことのできるアプリを用意するなど、コロナ禍においても多様なジャンルやオンラインを使用した鑑賞機会を提供しました。
- (2) 子ども・市民の文化活動、地域コミュニティ活動を支援し、豊かな市民生活実現と地域コミュニティ活性化に貢献する
子ども・市民の文化活動では、プロの奏者が直接指導をするユースオーケストラ事業や、学校に音楽を届けるアウトリーチ事業などを通じて、多くの子どもたちが音楽に触れる機会を提供し、子どもたちの健全な育成に寄与しました。また演劇では学校単位の参加のほかに、個人参加のネットワーク活動を立ち上げ、学生の文化芸術活動の支援を行いました。
地域コミュニティ活動では、地域住民協議会が実施するセンターまつりなどの催しの多くが中止となりましたが、一部実施した講座や講演会などを支援し、地域コミュニティの活性化に寄与しました。

(3) 指定管理施設において、万全な維持管理と常に進化する運営でお客様満足の最大化を図る
利用制限や感染防止対策などお客様にもご協力をいただきながらの開館が続くなか、お客様の声対応システムの運用等によりお客様のニーズを的確にとらえ改善に結びつけ、常に利用者目線に立った施設運営を行いました。

(4) 経営基盤の強化を図る

新たに管理職となった者や新規採用者の外部研修受講や職員への計画的な研修による人材育成に取り組み、組織力の強化を図りました。また、効率的な業務執行により固定経費の削減を図るとともに、利用・開催制限のあるなか、利用料金や自主事業収入などの確保や各種助成金や補助金の制度を活用し収入増を図るなど収支改善に努めました。

2. 課題と展望

(1) 自主事業収入等の増収

市民のライフスタイルや価値観の変化による市場ニーズを的確に捉えた魅力ある事業を企画するとともに、芸術・文化の意義をより積極的・効果的に発信していく必要があります。従来の手法にこだわることなく、オンライン配信など新しいサービスの充実を図り、経営的視点を持って事業を進め、自主事業収入等の増収を図ります。

(2) 固定経費の抑制

安定した財政運営のための収支改善には、固定費などの経費削減が必要であり、引き続き新電力会社との契約を継続するとともに、複数年・複数館契約による委託費の縮減など効率的な執行を進めていきます。

(3) 組織力の強化

職員の正規化や再任用制度の確立など組織力強化に取り組んでいますが、正規化した職員の更なるスキルアップなど、引き続き人材育成に取り組めます。

(4) 情報発信の強化

財団主催事業の広報や宣伝を強化し観客数の増加を図るとともに、施設の利用案内などを積極的に発信し、利用率を向上させる必要があります。

財団設立 20 周年を契機に令和4年4月より財団情報紙をリニューアルするとともに、マスメディアやSNSなど様々な手段で財団の認知度を高める情報発信の強化を図ります。

(5) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないなか、お客様に安心して施設をご利用いただくため、感染防止対策を徹底して継続します。事業実施に当たっては、感染状況を見極め、オンライン配信やSNSを活用しながら、安心して参加できるよう創意工夫して行います。

Ⅱ 事業概要

1. 芸術文化の振興

(1) 音楽・演劇等

① 鑑賞機会の提供

クラシックコンサート、ポピュラーコンサート等を実施しました。

ア. 重点事業

第 12 回目となる「八王子音楽祭 2021」は「木村カスミベリーダンス公演」と「南大沢モーニングコンサートVol.39 窓を開ければパリ！～パリ音楽旅行」の 2 公演を除いて延期または中止し、オンラインイベントを中心に実施しました。



八王子音楽祭 ロビーコンサート

イ. 芸術文化会館

八人の王子たちスピンオフ企画「王子、ピアソラ生誕 100 周年を大いに祝う」や演劇公演「めにみえない みみにしたい」、「柳家権太楼・林家正蔵 二人会」や池上彰氏ほかをゲストに迎えた「真 貴子と素敵なお客様」、「TSUKEMEN CONCERT HAPPY キッチン」や「夏井いつき句会ライブ in 八王子」など、多様なジャンルの公演を実施しました。



夏井いつき句会ライブ in 八王子

ウ. 南大沢文化会館

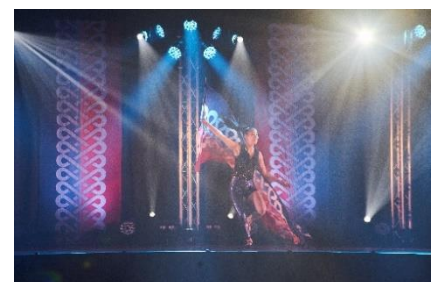
「南大沢ジャズシリーズVol.24 色づく秋の JAZZ 日和！」や「八人の王子たち 第 6 楽笑!!」を実施しました。

エ. J:COM ホール八王子

「SALT&SUGAR Live Tour 2021」や「フレッシュ名曲コンサート 原田慶太楼/東京交響楽団の響き」、「ドラゴンクエストコンサート」のほか、指揮に昨年度までユースオーケストラ音楽監督だった川瀬賢太郎、ソリストに第 2 回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールin八王子第 3 位入賞辻本玲を迎えた「東京交響楽団第 8 回八王子定期演奏会」を実施しました。また、夏休み恒例の子供向けオーケストラコンサートの内容を刷新し「トイ♪ トイオーケストラ！」を開催、さらに、新規にロビーコンサートを 3 回実施しました。

② 文化活動等普及

第 5 回目となる「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル 2021～」は無観客オンライン配信で実施しました。演劇では学生が参加する体系的なワークショップと発表公演を一部オンラインで実施しました。また気軽に楽しめる平日開催のコンサート、学校の希望に沿った演奏を届けるアウトリーチ事業を実施しました。



伝承のたまてばこ SHIKISAI

ア. 芸術文化会館

演劇では「八王子ユースシアター2021:クロッシング」と「演劇ネットワーク ぱちぱち」及びそれらの関連ワークショップを実施しました。「八王子ユースオーケストラ」ではワークショップで練習を実施したほか無観客の発表会を実施しました。



演劇ネットワーク ぱちぱち

イ. 南大沢文化会館

小中学生を対象にした「MOBダンスワークショップ」は、新型コロナウイルスの感染状況が若年層に広がった期間について、回数を減らして実施しました。また平日の午前中に市民が気楽に楽しめる「モーニングコンサート」は、6月と9月（八王子音楽祭）、12月に実施しました。

ウ. 学園都市センター

学生を対象とした「学生の“KOTEN”芸能」の第1回目として八王子車人形の体験講座を実施しました。

エ. J:COM ホール八王子

市民合唱八王子クリンゲンコアによるオペラ万葉集の練習と発表は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見送りました。

オ. 学校アウトリーチ事業

学校の希望に沿った企画やアーティストを選び、聴いても見ても楽しい演奏を繰り広げ、子どもたちが生の音楽を体感できる機会を市内小学校4校に提供しました。

③ 公演等への支援や実行委員会の事務局運営

市民が主催する芸術文化事業に対し、当日の運営や舞台作りのアドバイスなどの人的支援や会場利用料の一部助成などを行いました。

(2) 美術(夢美術館)

美術鑑賞、文化芸術活動等の普及事業や施設の維持管理、収蔵品の保管を適切に行いました。

① 美術鑑賞

ア. 国内外で高い評価を受けている優れた美術品等の紹介として「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展」、「自転車のある情景 ART SCENE WITH BICYCLES」を特別展で開催しました。

イ. 学生や子どもも楽しめる「しかけがいろいろ！ とびだす絵本展」、「かこさとしの世界展 だるまちゃんもからすのパンやさんも大集合！」を特別展で開催しました。

ウ. 地域ゆかりの美術作品を紹介

常設展で小島善太郎、鈴木信太郎、城所祥、清原啓子など市にゆかりの作家の国内トップレベルの作品を紹介しました。また、「自転車のある情景」展では八王子市郷土資料館所蔵の東京オリンピックの資料等を併せて展示しました。



「世界が絶賛した浮世絵師 北斎展」

② 文化芸術活動等普及

ア. 市内の帝京大学との共同研究「洋画家 小島善太郎資料研究」の成果を常設展(収蔵品展示)で紹介したほか、「自転車のある情景」展では東京造形大学と協働しました。「市民公募 夢美エンナーレ入選作品展」では、70名の入選者から大賞1名、準大賞2名、奨励賞10名を選出し表彰しました。



「自転車のある情景 ART SCENE WITH BICYCLES」

イ. 八王子美術連盟と共催し、市内のギャラリーをめぐる「八王子画廊散歩」を実施しました。

ウ. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示室内での解説会(ギャラリートーク)に替えて、学芸員の解説などの動画配信を行いました。

また、特別展図録と収蔵品を紹介する図録等を販売しました。



「しかけがいろいろ！ とびだす絵本展」

(3)文化施設の管理・運営

芸術文化会館(いちようホール)、南大沢文化会館の指定管理者として、利用者満足度向上及び、指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料金徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに、施設利用の促進及び利用者満足度向上に努めました。

ア. 芸術文化会館(いちようホール)

開館日数 308 日

入場者数 111,158 人 施設利用率 66.7%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.4%(大いに満足と満足の合計)

イ. 南大沢文化会館

開館日数 302 日

入場者数 83,519 人 施設利用率 85.1%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 98.6%(大いに満足と満足の合計)

(4)美術館の管理・運営

夢美術館の指定管理者として、施設、設備、備品、収蔵品の適正な管理及び受付業務(観覧料の徴収など)を行いました。

開館日数 206日 施設利用・事業参加者数 28,649人(うち展覧会入場者数28,480人)

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 100%(大いに満足と満足の合計)

2.コミュニティづくりに関する事業

(1)コミュニティの育成

ふれあいのあるまちづくりの推進及び地域住民の交流促進を図るとともに、地域コミュニティの高揚及び啓発を図りました。

① コミュニティづくりの活性化

地域住民協議会と協働し実施する「コミュニティ講座」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

② 住民協議会連携事業

17 地域住民協議会で組織する住民協議会連絡協議会の総会は書面で実施し、定例会は2回実施し、情報交換や意見交換を行いました。また、地域住民協議会役員を対象として新型コロナウイルスの状況と健康対策についての講演会を実施しました。



コミュニティ講演会

③ コミュニティ用具の貸出し

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、センターまつりなどの各種イベントが中止となり用具の貸出しも減りましたが、プロジェクターについては年間を通して利用がありました。

④ 地区図書室の運営

地区図書室 13 室については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4 月 1 日から 5 月 31 日まで本の貸出返却のみとしましたが、6 月 1 日より閲覧を再開しました。地域住民協議会と連携した運営により、図書の貸出しや八王子市図書館の蔵書のリクエスト受付及び貸出・返却業務などを担いました。

なお、「読み聞かせ」や「季節ごとの行事」については、感染防止対策をとりながら、一部実施しました。

(2) コミュニティ活動の支援

地域コミュニティの一層の活性化を図るため、地域住民協議会への運営経費や八王子まつりなどの開催経費等を助成しました。

① 住民協議会への助成事業

地域コミュニティづくりの推進団体である 17 地域住民協議会の活動を支援するため、運営費のほか、広報紙の発行費用をそれぞれ助成しました。なお、各地域の市民センターまつりなどの催し物は、多くは中止となり、一部大幅に規模を縮小して開催しました。

② まつりへの助成事業

「八王子まつり」、「フラワーフェスティバル由木」及び「踊れ西八夏まつり」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったことから開催準備経費のみ助成しました。規模を縮小して開催した「八王子いちょう祭り」は、開催経費を助成し、市民の交流促進など地域の活性化に向けた活動の継続を支援しました。

(3) 地域ふれあいサロン

市民センター内に一人でも気軽に立ち寄れる「地域ふれあいサロン」を地域住民協議会と連携・協働し、2 市民センター（由井、中野）で実施しました。

(4) コミュニティ施設の管理・運営

市民センター 18 館及び地区会館 14 館については、地域住民協議会や地元町会・自治会などと連携し、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、利用案内、施設貸出及び利用料金徴収などの業務や、施設や設備の保守管理業務を行いました。

また、石川市民センター外 7 館が 10 月までワクチン集団接種会場として利用され、来所者への案内や準備、駐車場の確保などについて八王子市に協力しました。

施設の利用抽選申込みについては Web 申し込みを引き続き実施し、また電話による仮予約については Web から利用確定できるサイトを構築し、感染拡大防止や利用者の利便性向上に努めました。

開館日数 302 日

利用者数 964,862 人 施設利用率 59.8% ※区分利用率

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 96.7% (大いに満足と満足の合計)

※市民センターの区分利用率は午前・午後(A・B)・夜間(A・B)それぞれの利用区分数の合計を利用可能区分数で除した数

3. 市民のスポーツ活動の促進

(1) 地域との協働

地域と協働した公園づくりを進めるため、アドプト団体やボランティア団体と協働し、安全できれいな公園づくりを行うとともに、就業体験の場の提供として、東京都立南大沢学園の実習生等の受け入れを行いました。

また、上柚木地区の樹林地内の竹林を整備するとともに、活用について日本工学院八王子専門学校土木・造園科と協働して検討を進め、企画立案を行いました。



愛宕小学校と樹木プレート制作

(2) 豊かな自然の保護と活用

上柚木公園の貴重な環境資源を活かすため、自然観賞教室やサレジオ工業高等専門学校の協力のもと愛宕小学校と協働して行った樹木プレートの制作など 10 事業を実施したほか、環境資源事業として高尾の森づくりの会の協力のもと里山の林床再生を実施しました。

(3) 市民の健康増進・子どもの体力向上

市民の健康増進・子どもの体力向上関連 11 事業(うち後援 1 事業)を実施しました。

市内唯一の小学生対象短距離走競技会「第 10 回はちおうじダッシュ!」は、市内陸上関係者と開催の是非について検討会を重ね、市内小学校 4～6 年生を対象に実施し、211 人の児童が参加しました。

コニカミノルタ陸上競技部や JR 東日本ランニングチームのコーチたちが講師を務める「ジュニアジョギングスクール(年 20 回)」では、地元の小中学生 延べ 698 名が参加しました。



はちおうじダッシュ! ウォーミングアップ

(4) 上柚木公園の管理・運営

運動施設を含む上柚木公園の指定管理者として、使用受付・貸出及び利用案内、使用料収納事務などの運営業務を行いました。また、施設や設備の保守管理・運動施設管理業務、安全安心の遊具管理など適正な公園施設管理業務を行いました。

運動施設利用人数 246,230 人 施設利用率 85.4%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.5%(大いに満足と満足の合計)

4. 学園都市づくりの促進

(1) 学園都市大学

八王子学園都市大学(いちょう塾)では、大学コンソーシアム八王子加盟の 25 大学等を含む講座提供機関 31 機関より 165 講座の提供がありましたが、新型コロナウイルス感染症等の影響により 31 講座が中止となり、134 講座開講しました。

また、受講生の募集のため、講座案内 13,000 部及び市広報特集号 571,000 部を作成するとともに、学園都市センターをはじめとする市施設に講座ごとに作成したチラシを配布する等、市内外への周知に努めました。



いちょう塾 講座風景

(2) 大学コンソーシアム八王子

大学コンソーシアム八王子の事務局として運営を支援しました。

① 大学等連携事業

- ア. 大学コンソーシアム八王子に加盟する 25 大学等と連携して開催している「夏休み子どもいちょう塾」は、新型コロナウイルスへの感染対策を徹底したうえで、対面で2日間開催しました。今年度より、受講した児童に修了証の発行を開始しました。
- イ. 全国の教職員を対象とした「FD・SDフォーラム」は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで実施しましたが、対面と同様のプログラム(基調講演・パネルディスカッション・分科会)で2日間開催しました。「SD勉強会」は、対面で開催しました。



第 11 回夏休み子どもいちょう塾

② 情報発信事業

- ア. 情報紙「大学コンソーシアム八王子情報 Vol.19『八王子まるごと子どもキャンパス』」、「大学コンソーシアム八王子情報 vol.20『学園都市「八王子」で学ぼう 八王子の大学を選ぶための【キャンパスガイド】』」を発行しました。
- イ. 2021新入生のための生活便利帳「シティインデックス八王子」を発行しました。
- ウ. SNSの活用を含めたウェブサイトにより情報を発信しました。

③ 学生活動支援事業

- ア. 八王子地域を舞台に地域貢献を目的として学生が企画・運営・実施する「学生企画事業補助金」採択団体に補助金を交付しました。ハイレックス開催した成果報告会は、動画配信サイトを通じて全国に配信しました。
- イ. 「八王子まつり山車曳き体験」は、八王子まつりが開催されなかったことから中止しました。
- ウ. 「八王子地域学生生活活動連絡会シンポジウム」は、メタバースを用いてハイレックス開催しました。その様子は、動画配信サイトを通じて市民に配信しました。
- エ. 八王子学生委員会と共催している「八王子地域合同学園祭第16回★学生天国★」は、開催時期を10月に延期したうえで、規模を縮小して開催しました。



学生企画事業補助金成果報告会
(配信画面)



八王子地域学生生活活動連絡会シンポジウム(左:メタバース)

④ 産学公連携事業

- ア. 学生による様々な分野の研究成果を発表する「第13回大学コンソーシアム八王子学生発表会」は、対面とオンラインの併用で開催しました。今年度は英語で口頭発表するセッションを設けました。
- イ. 「八王子学生CMコンテスト」は、新型コロナウイルス感染症への感染対策を徹底したうえで実施し、23作品の応募がありました。上映会・表彰式は、動画配信サイトを通じて全国に配信しました。また、八王子地域において学生のデジタルコンテンツ制作意欲や制作技術の向上を図る環境を整えたことに対して、総務省関東総合通信局より表彰されました。



第 13 回学生発表会(展示発表)

⑤ 外国人留学生支援事業

- ア. 「教職員のための勉強会」は、オンライン開催とし、東京外国語大学と国際基督教大学の取組みを伺い、意見交換を行いました。
- イ. 「留学生座談会」は、就職活動をテーマにオンライン開催とし、留学生同士の意見交換(第1部)に続き、市内企業採用担当者と同企業内定者の講演を聴講する 2 部制で開催しました。

(3) 学園都市センターの管理・運営

学園都市センターの指定管理者として、利用者満足度向上及び指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料金徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに、施設利用の促進及び利用者満足度向上に努めました。

開館日数 322 日

入場者数 84,411 人 施設利用率 78.3%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 98.3%(大いに満足と満足の合計)

5. 法人管理

(1) 財団の管理・運営

予算決算・経理・人事管理等を適正に行い、円滑な運営に努めました。

また、評議員会を 2 回、理事会を 4 回、諮問委員会を 2 回開催しました。

(2) 収支安定の取り組み

外部助成金の獲得などにより収入の確保に努め、利用料金収入の減収を補いながら、効率的な業務の執行により支出を抑制し、収支の安定に取り組みました。

(3) サービス品質の向上

マネジメントの確実性を高めるとともに、お客様の声を的確に改善につなげ、利用者目線に立った施設管理を行いました。また、情報セキュリティポリシーに基づき情報資産や情報機器を適正に管理しました。

(4) 組織力強化

① 人事制度の改革

嘱託員の正規化や一般職職員の総合職への転換制度の導入により、職員のモチベーションを高めて将来の財団を担う人材を確保するとともに、65歳を超える職員の再任用について制度化しました。

② 人材の育成

新たに管理職となった者や新規採用者の外部研修への参加のほか、研修計画に基づき各種研修を実施したほか、サービス介助士の資格習得や指定管理事業計画で提案した上級救命講習に参加させるなど、職員のスキルアップを図りました。

③ 情報発信力の強化

リニューアルした財団ホームページを通じ、芸術文化公演を始めとする各種催物などの情報や本財団が管理運営する施設の利用案内を市民に発信しました。また、18 市民センターにおいては WEB による抽選申込を継続し、サービスの向上を図りました。

(5) 第 3 次中期経営計画及び指定管理提案の目標達成

第 3 次中期経営計画(令和 3 年度～7 年度)施策や目標を達成するために作成した各所管の課別経営計画について、理事長、常務理事及び財団管理職で構成する「執行会議」を毎月開催し進捗状況や成果について情報を共有するとともに、具体的な改善策を検討・実施しました。また、管理職で構成する「部課長連絡会」を開催し、情報共有を図るとともに、事業検討や課題解決に取り組みました。

令和3年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第9条第2号に規定する事業報告の附属明細書は作成していません。